

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 0172900662, 有限会社みのり, グループホームみのり ユニットI, 旭川市永山2条17丁目1番11号, 平成30年8月30日, 平成30年9月27日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 column: 基本情報リンク先URL. Contains URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosvoCd=0172900672-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains: タンジェント株式会社, 北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内, 平成30年9月19日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てで外出が楽にでき、敷地が広く天気の良い日はテントやベンチを設置してあるのでゆっくり過ごす事が出来る。入居者もどんどん高齢になってきているが、車イスでの外出・寝たきりの方でもストレッチャーのまま近くの公園まで桜の花を見に行ったり出来るようにと地域の方がボランティアで手伝いに来てくださったり外へ出かける機会を設けている。朝・夕必ず足浴を行っており、スキンスリップの効果や1対1での関わりやコミュニケーションを図り、不安な事など話したり、安眠効果や体調の変化等も把握できるよい機会になっている。担当医や訪問看護師と連携し、ターミナルケアまで個々の要望に応じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大型商業施設が立ち並ぶ永山地区の幹線沿いに、平成14年7月に病院跡を改装して開設され、平成24年3月に同地域に新築移転して現在に至る木造平屋建て2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。また、ヘルパーステーション、訪問看護ステーション、児童デイサービス、生活介護事業所を併設しています。地域の人々に向けて認知症サポーター養成講座を開催したり、地元大学の看護学科の生徒の受け入れや小学校生徒の体験学習への協力など事業所の持つ専門性を活かして、地域貢献や地元の人々との協力・連携に取り組んでいる。一人ひとりのその日の希望に沿って、お花見や博物館、冬祭りやサンタプレゼントパーク展望台、動物園や永山神社祭見物など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (該当するものに○印), 項目, 取組の成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が名札の裏に「利用者様の想いを中心に共に生活を築いていく。」を理念と記したものを常に持ち歩きいつでも意識できるようになっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、職員は名札の裏に理念を常備しながら、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1回、ホーム主催のみのり祭で、地域の住民やご家族の方と交流の機会をもっている。	地域の人々に向けて認知症サポーター養成講座を開催したり、地元大学の看護学科の生徒の受け入れや小学校生徒の体験学習への協力など事業所の持つ専門性を活かして、地元の人々との協力・連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所者の介護度や認知状態・グループホームでの取り組み等を運営推進会議にて随時お伝えし、地域の人々からの協力を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行っており、ホームの入居者さんの状況や行事予定を報告し、意見を頂いた事は今後に生かすようにしている。避難訓練等も参加して下さり意見を頂いている。	運営推進会議を定期的で開催し、事業所の取り組み状況や日常生活の様子などの具体的な内容について話し合い、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点や相談等、市の関係機関や地域包括支援センターに問い合わせ、必要に応じながら利用し、対応している。	市担当者及び包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、定期的に全体会議の時に事例をあげ研修を行い、話し合い検討している。玄関の施錠を含めて身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。3ヶ月に1度管理者会議にて身体拘束など適正化対策委員会を開いている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止や高齢者虐待防止等の内部研修会を開催して、正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、全体会議の時に発表・勉強会を行っている。日常の中でも疑問に思う事は話し合い、家族にも意見を頂き防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修等に参加し知識を深め、いつでも対応出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設入所にあたり、入居前の見学・面談を重ね確認事項など説明を行ったうえで、不明な事がないかをお聞きし、十分に理解・納得された上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情相談窓口の連絡先を掲示している。家族や利用者が意見や要望を言いやすい関係・環境作りに努め、ご家族の面会時には沢山お話しして、ご意見をいただくよう努力している。	本人・家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように苦情等の意見箱を設置し、第三者機関への申し出先を明示している。また、出された意見等を運営に反映するよう会議等で話し合われている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を言いやすい環境作りに努めている。職員からの思いや意見は、その都度管理者へ伝えている。全体会議の時に話し合いの場を設けたり、意見交換等を行っている。	全体会議や日常業務を通じて、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員への登用や資格取得時には勤務を融通するなど職場環境を整えるよう努力している。休み希望をシフト表に反映する事により、公私ともに充実できるよう努め、勤務も時間内で就業できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に積極的に参加するよう促しケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修や活動に参加し交流を持てるよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や困っている事、不安に思っている事、どんな生活を送りたいか確認し信頼関係作りに努めている。出来る限り担当の職員が関わる様にし、不安感を軽減できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談し、ご家族の困っている事や希望・要望どんな生活を送って欲しいか等の希望を確認している。入所後も更なる信頼関係を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望され相談を受けた段階で早急か否か見極め判断している。家族や、居宅事業所等からも情報を得て、必要な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る事を促し行って頂き、コミュニケーションを図りながら共に支え合って生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時、最近の様子等をお伝えしている。家族にはこまめに相談し、アドバイスをいただいたり、一緒に考え支えている。定期的に便りを発行し、近況を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来訪はいつでも対応できる状態になっている。入居者が行きたい等希望があれば出来る範囲で支援している。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人との交流や場所へのドライブ、訪問などで関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等日々の生活の中で交流を持ったり、一人一人が関わりを持ったりできるように支援している。利用者同士の関係性に配慮し座る位置を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、縁を大切にしながらもつながらを持って連絡をとり協力をお願いしたりできる関係作りや必要に応じ相談や支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話するのは勿論、毎日の関わりの中のちょっとした仕草や表情、声なき声を汲み取れるよう努めている。介護計画書に反映できるよう本人の思いに耳を傾けるようにしている。	アセスメントの実施や生活歴の把握で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、職員間で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者から日常的に昔話を聞いたり、家族に伺ったりして、生活歴や馴染みの暮らし方、習慣を把握している。又契約時に生活歴を記入して頂く用紙も用意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に介護記録を毎日記入し、日常の様子、心身の状態等・個々の生活リズムを把握しその方にあった過ごし方を支援できるよう心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、また会議の時に職員間で検討を行い、それぞれの意見や本人や家族の要望等も伺って、介護計画に反映するようにしている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族からの意向や要望、医師及び看護師からの指導や助言、モニタリングで職員からの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日常の様子、心身の様子、ケアの実践について記録している。今後、ケアプランと記録の関連を充実させていきたい。また、申し送りノートも活用するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、対応出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々に運営推進会議等で入居者様の生活を知って頂き、地域でボランティア活動をされている方に行事の時に来て頂いたりと安全で豊かな生活を送っていただけるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する病院を必要に応じて、職員付き添いにて受診している。かかりつけ医と連携し、必要時電話にて相談している。定期的に内科・歯科の往診医の診察がある。	定期的に内科・歯科の往診医師の診察がある。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、必要に応じて職員が付き添って受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問時に介護職員は気付いた事や情報等を伝え、訪問看護師からは医学的なアドバイスを受けてたり相談できるようになっている。いつでも対応出来るように連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会や病院職員を通じて状態の把握に努めている。早期退院に向けて病院やご家族と連絡を取り合い情報交換や相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族が希望される場合はターミナルケアを行っている。訪問看護を利用したり、職員全員がご家族の意向等、情報を共有し現状を理解することによりチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアを実践している。また、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って対応の確認をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や通報訓練は昼夜を想定して、全員参加で定期的に行っている。水害時の避難場所の把握にも努めている。地域の方に協力して頂けるよう地域行事への参加等心掛けている。	自然災害(風水害、地震、停電時等)の避難場所の把握や緊急時の連絡網を活用して全職員に伝わる体制を築いている。また、年2回、昼夜を想定した避難訓練や通報訓練を実施している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格の尊重とプライバシー保護を考え言葉遣い等気をつけ、時々なれ合いの言葉で話してしまう事もあるのでその都度、スタッフ間でも注意しあえるよう努めている。	内部研修会の開催や日常の業務を通じて、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で利用者が職員に対して遠慮なく話せる関係作りに努めている。自己決定が難しそうな場合は、選択出来るような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、それに囚われすぎないように柔軟な対応を心掛けている。個別に散歩や買い物・外食に出掛ける事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容師に来てもらっており、本人の好みに合わせてカットしてもらったり、パーマをかけてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の食事の好き嫌いを把握し、嫌いな物がある時は別の物を提供している。食事形態も考慮している。月に一度行事の時はチラシ寿司やお刺身等提供しており、とても喜ばれている。	食事が楽しみな時間になるよう、月に一度の行事の時は、特別ランチを提供している。また、一人ひとりの嗜好や好み、力を把握して、職員と一緒に食事の準備や後片付けなどしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日チェックし、記録している。一人一人の状態を把握し、食事形態を変えたり、水分に関してもトロミを使用したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの援助を行っている。その方の能力に応じて、出来る部分はやってもらい、出来ない部分のみ介助している。必要時、往診歯科医に診察して頂きアドバイス等もらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄担当の職員が中心となりオムツの使用方法を随時検討し対応している。排泄パターンを把握しパットに頼りすぎないよう可能な限りトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、パットに頼り過ぎず可能な限りトイレでの排泄を行えるよう、声掛け誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員全員が、便秘の悪影響を理解しており、運動や食事・水分・毎日ヨーグルトの提供などの援助を行い、便秘予防に努めている。排便が無い時は、下剤調整等対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴の曜日は基本的には決まっていますが、個々の状態や体調に合わせて本人の希望等を優先している。拒否等みられる時は時間をずらす・曜日をずらす等本人のタイミングに合わせている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。また、拒否があった場合には、本人のタイミングに合わせて柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室になっている為、自由な時間に休んで頂いたり利用者の体の状態に合わせて日中に休息する時間を作り休んで頂いている。朝・夕と足浴を行い1対1でのコミュニケーションを図り、血行をよくして気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人薬カレンダーを用意しており、薬変更時は申し送りや朝礼、終礼時にも確認し、周知徹底できるようにしている。職員誰もが確認できるよう薬の内容等、ファイリングし共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内では職員と洗濯物たたみや出来る事を行って頂いている。個々に嗜好品を購入し、食への楽しみが持てるよう配慮している。花見や雪まつり見学等季節の行事を楽しんで頂けるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に家族の面会が出来、一緒に外出・外食等も出来る。希望時、外食したり随時買い物へ出かけたりにしている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、お花見や博物館、冬祭りやサンタプレゼントパーク展望台、動物園や永山神社祭見物など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でお預かりしている利用者がほとんどですが、ご本人・ご家族の了承のもとで支援している。希望時はいつでもおこずかい帳をみる事が可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、ご家族に電話をかけたり又施設に利用者宛てに電話がきた際はご本人に取り次いでいる。年賀状や手紙の代筆も希望があれば行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、鏡餅・ひな人形・五月人形・クリスマスツリー・花等を飾り、掲示物も季節感を大切にしている。共有スペースで居心地よく過ごして頂けるように使いやすい配置等心掛けている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用の空間は広く、季節毎の飾り付けや行事参加の写真の掲示などで生活感や季節感を採り入れて、本人が居心地良く過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いてリラックス出来るような空間になっている。食卓からもテレビをみる事が出来、ホールが広くスペースもある為、テレビの前に移動してゆっくり見たり、ベランダの前で外を眺めたりと思い思い過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室個室になっている為、仏壇や使いなれた家具・写真等、馴染みの物に囲まれて生活できている。温度調整や換気にも気をつけている。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、その人の状態や体調に合わせて、都度環境整備やベットやダンス等の配置替えを行っており、ご本人が使いやすく生活しやすい環境作りに努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900662		
法人名	有限会社みのり		
事業所名	グループホームみのり ユニットII		
所在地	旭川市永山2条17丁目1-11		
自己評価作成日	平成30年8月13日	評価結果市町村受理日	平成30年9月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900672-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成30年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんがどんどん高齢になり外出機会も減っているが出来る限り季節を肌で感じて頂けるように希望があれば寝たきりの方はストレッチャーで近くの公園に花見に行ったり、近所のボランティアさんも活用している。元気な方はドライブにもお誘いしている。
 併設の訪問看護ステーションに理学療法士が在籍しており、リハビリをしたり寝たきり状態から車椅子生活に戻った方もいる。また、排便管理に力を入れており、便秘の方や便秘によって引き起こされる行動・心理症状はほぼない。
 開設時からおこなっている朝夕の足浴は継続している。
 担当医や訪問看護師と連携し、ターミナルケアまで要望に応じている。
 介護ロボットを導入し、就寝時の心拍数や呼吸数がわかり急変時をいち早く気づける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果		項目		取組の成果	
		↓該当するものに○印				↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい			○	2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらい				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらい				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらい				2 職員の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 職員の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらい				2 利用者の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 利用者の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらい				2 家族等の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族等の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらい				
			3 利用者の1/3くらい				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の想いを中心に共に生活を築いていく」を基本理念にし、職員の名札の裏に記し日頃から意識付けできるようにしている。新しい職員が入った際もオリエンテーションで伝えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1回のみのお祭り祭りに近所の方をお誘いし、交流を深めたり、近所のボランティアさんに近くの公園で行うお花見のお手伝いもお願いしている。事業所の避難訓練にも来て頂いてる。運営推進会議にも参加して頂いて意見や周辺情報を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトがおり、年に2・3回地域の人向けに公民館や会館・学校で講座を開いている。入居者の介護度や身体状態、グループホームでの取り組みなどを運営推進会議にて随時お伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、サービス内容を報告し、意見交換も行っている。そこで出された意見も今後のサービス向上に活かしている。施設内の行事でボランティアさんが必要な時は呼びかけている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点や相談など、市の関係機関や地域包括支援センターに問い合わせをし、必要に応じて対応している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に全体会議で身体拘束をしないケアの振り返りをしたり、共通認識を持てるように事例をあげスタッフ全員で話し合い、玄関の施錠を含め身体拘束のないケアに取り組んでいる。三ヶ月に1回管理者会議の中で「身体拘束など適正化対策委員会」を行い、その話し合った内容を全体会議で周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加したり、それを全体会議で発表し勉強会をし、スタッフ間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に積極的に参加し、入所者に関することであれば、都度担当職員と話し合い入所者が安心、満足できるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の相談時には丁寧に説明を行い契約書、重要事項説明書などは自宅へ持ち帰っていただき、不明な点がないように些細なこともお問い合わせ頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者が意見や要望を言いやすい関係作りに努めている。家族の面会時には意見や要望をお聞きし、速やかに対処している。職員周知の為、申し送りノートを活用し朝礼や全体会議でも伝えている。意見箱も玄関に設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を言いやすい環境作りに努めている。毎日の業務の中でスタッフからの意見を聞き、話合っている。全体会議でも話し合いの場を設け提案したり意見交換など行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望をシフト表に反映する事により公私共に充実できるよう努め、勤務も時間内に就業できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験年数や係りに合わせて研修内容を計画している。外部研修の案内も提示している。また理学療法士より臥床時・車椅子乗車時のその人に合ったポジショニングを教えたただけ、技術面で向上できる機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は二ヶ月に一度、永山の地域密着型事業所の管理者会議があり、管理者同士交流している。グループホーム協会に入会し、職員も研修に参加して同業者と交流を持つ機会を促している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを多くとり、不安や要望を聞いている。ご本人の訴えをご家族にお伝えし、可能な限り訴えに応えられるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等、ご家族の思いや要望、不安など聞き取り、ケアに活かしている。入居後も面談や電話などで不安感を除去できるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の方が何を必要としているか見極め問題の把握に努めている。必要に応じ他の関係機関の紹介や必要と思われるサービス内容の説明又は、リスクについても説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の大まかな流れは決まっているが本人のリズムを尊重し柔軟な対応を心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時、最近の様子をお伝えし、地方の方には手紙やメールで近況を伝えている。必要に応じてご本人支援のご協力頂く等している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔働いていた場所へ行ったり、馴染みの方が会いに来てくれる。いつでも面会できるよう面会時間は設けず、対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を考慮し席の位置をその都度工夫している。利用者同士交流があり、一緒にソファに座り過したり声を掛けたりしている。また、職員が間に入り話易い雰囲気を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後や亡くなった場合や入院などでサービスが終了した後もご家族より連絡や相談があった時は対応し支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちや希望を第一に考え行動するようにしている。会話や仕草、表情からご本人の思いや意向を汲み取れるように努め少しでも反映できるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報を得たり、ご家族や本人との会話の中で以前の暮らしや大切に思っている事など情報把握している。入居時には出来るだけ使っていた物を持ってきていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕に足浴を行いながらコミュニケーションをとり心身の状態を把握する機会を作っている。申し送りや朝礼を利用し情報の伝達や交換をし、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、ご本人との日々の関わり方の中で思いや意見を聞き、反映できるように努めている。必要時、計画の見直しもしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを活用し情報共有し、利用者さんの小さな変化にも気づき早急にできるようにしている。毎月の会議でも情報共有をし計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体の状態によってベット上でのポジショニング、車椅子上での座り方を理学療法士に教えていただきながら実践している。居室内の環境整備も適時行う。また、家族に代わり通院介助や役所手続きも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	旭川大学の看護学科の実習の受け入れやアルバイトを受け入れている。また運営推進会議で地域資源の情報や協力を得ながら行っている。ボランティアも受け入れたり、小学校の施設見学なども受け入れる予定である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の希望をふまえ、訪問看護師と密に連携をとり、地域の医療機関や利用者にとって馴染みのある医療機関を利用するなどしている。往診、訪問看護を利用しており、緊急時や様態変化時にも対応できる体制となっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問があり、健康管理を行っている。介護職員は気づいた事や情報など管理者を通じて訪問看護師に伝え、医学的なアドバイスを受たり、相談できる。不安な事や心配なことがあれば緊急時の対応もあり、連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はお見舞いや、病院職員やご家族を通じて、状態の把握に努めている。退院後の体制についてもご家族と十分に話している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末に対する対応方針について説明している。利用者さんの状況に応じご家族と十分な話し合いをし、「日常生活及び終末期に向けての覚書」にて意思確認している。職員間でもご家族の意向や方針などを伝え情報を共有し安心して終末期を過ごせるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応するマニュアルを掲示。定期的に内部研修を行い適切な対応ができる様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練、通報訓練を実施し、災害への対応が出来るようにしている。また、連絡網があり、災害の際は、それを使用し全職員に伝わるようにしている。また数人だけが民生委員さんや周辺住民にも訓練に参加していただいている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者中心のケアを基本としている初心の気持ちを忘れないように基本的な姿勢や言葉遣い、尊厳などについて施設内研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から利用者が職員に対して遠慮なく話せる関係作りにつとめている。自己決定が難しい利用者には選択が出来るような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	担当職員が中心となり利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、出来る限りご本人のペースで利用者の想いを中心に支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を本人希望時、活用し、カット、パーマ、カラーなど依頼している。その人らしい服装、身だしなみを大切にしている。ご家族に協力頂き馴染みの床屋に行ったりもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の状態や能力に食事内容、食事形態を変えている。ご家族が持ってきた食事やお菓子などを一緒にお部屋で食べたりしている。金曜日に来るパン屋さんを楽しみにしておりご自分の好きなものを買っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問看護師と連携しながら栄養バランス、水分量に気をつけながら一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。排尿と水分量のインアウトを記録に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎にならない様に、自力口腔ケア、介助など一人ひとりの状態、力に合わせ毎食後口腔ケアをしている。口腔内が乾いている方が居れば口腔ジェルを塗布している。歯科往診などで指導していただいたりもしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄担当の職員が中心となりオムツやパットの使用方法を検討し、対応、排泄パターンを把握している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べれる方は毎朝ヨーグルトをたべている。また、いちじく浣腸も定期的に行い、下剤の調整を訪問看護師と相談しながら行い必要があれば訪問看護師に浣腸もしていただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者のタイミングに合わせて曜日を変更し入浴することが出来る。また、ミスト浴が隣の児童デイサービスにあり、ターミナル期も清拭だけでなく寝たきりの方もストレッチャーのまま入る事が可能である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に足浴を行い、安眠を促している。寝つきが悪い場合はお菓子を食べて頂いたりお話を聞くなど臨機応変な対応が出来るようにしている。体力の無い方は午前午後で休息をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとり薬カレンダーがあり定期的に薬剤師が来て薬のセットをしている。変更があったり、質問があれば都度聞き、利用者にかかれても応えられるように説明を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みや新聞紙畳み、ウエス切りは無理の無い程度でスタッフと行っているドライブや花見、雪祭り、動物園、博物館見学など気分転換の図れる企画も企画している。二週間に一度、移動販売、毎週金曜日パン屋さんがきており楽しみにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さん、ご家族の希望で自由にご家族との墓参り、外食、外泊にいけるようにしている。また体調の良い時は散歩や併設のビニールハウスにて野菜を収穫したりしている。ドライブにもお誘いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者は本人に任せ、管理できない利用者とはご本人と家族さんに了承を得て施設の金庫でお預かりしている。希望時はいつでもお小遣い帳を見ることが出来る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、自由に使用できる。手紙もあれば代行して投函しに行ったり、一緒に投函しに行くことが出来る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出せるように雛人形や五月人形、短冊、クリスマスツリーなど採り入れている。温度もクーラーやヒーターを使い調節している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがあり、横になったり、利用者同士で過ごせるよう配慮している。ちり紙はすぐ片付け、汚物は新聞紙にゴミ袋に入れ速やかに捨てている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を使用している。また、ご家族様との写真や誕生会で作った作品など飾り、本人の過ごしやすい環境になるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を配置し安全が保てるように配慮している。また居室から出てきてトイレまでの導線もソファなどを使い確保している。浴室の床は水切れが良く滑りにくい。浴槽には滑り止めマットを設置している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームみのり

作成日: 平成 30年 9月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議を定期的に行っているが、地域の方の参加者が少ない。	もっと地域の方に参加して頂き、グループホームの事や認知症の事を知って頂きたい。	・民生委員さんに地域の方にお声掛け頂いたり、回覧板などで出席者を募る。 ・地域の行事等に参加し、地域でボランティア活動がされている方にも声掛けを行い、出席者を募る。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。